

平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド	職名	代表理事 兼当調査・パトロール員	助成金額	200,000 円
氏名	菅野 正巳	メール アドレス	office@fishowlaid.jp		

研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）

絶滅危機のシマフクロウの若鳥の生息環境整備調査

助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）

当団体はこの度貴助成金を使用し、20 年以上観察を続けているシマフクロウのペアから巣立った個体が複数生息する可能性が高い近隣エリアにおいて、今後生物多様性の構築が望める定着可能な候補地を選定するための調査を実施しました。助成申請金額が 40 万円のところ 20 万円と減額になったことにより、調査の備品代と調査員人数を縮小し実施いたしました。

■実施時期：2016 年 11 月～2017 年 3 月期間の 15 日

■実施場所：浜中・厚岸町の酪農地帯及び隣接する 2 河川及び河畔林

■実施者：シマフクロウ・エイド代表理事 菅野正巳 1 名

■調査手法：踏査、IC レコーダー、センサーカメラによる無人調査

■調査結果：今回の踏査エリアは、住民へのヒアリングにおいて農地開拓以前や開拓直後はシマフクロウの生息情報が認められており、20 年前にも同エリアで生息及び環境調査を実施しています。当時は、牧場から牛の糞尿が河川に流れ込むことによって河川の水生物が激減しており、シマフクロウの生息にはほど遠い状況でした。

その後、各酪農家に糞尿を浄化するシステムが導入されたこともあり時間をかけ徐々にではありますが河川環境の回復が進み、今回実際に河川及び河畔林踏査を行なった際、シマフクロウの指標となる魚類、貝類、他の魚食性鳥類等を確認することが出来ました。河畔林はシマフクロウが生息する空間としてまだ回復にはさらなる時間を要しますが、確実に生物多様性が進行し生態系が回復傾向であることがわかりました。※確認された生物：魚類 10 種(ヤマベ、アメマス、ウグイ、エゾウグイ、サクラマス、サケ、ニジマス、エゾトミヨ、エゾハナカジカ、ヤツメ SP 等)、貝類カワシンジュガイ 1 種、鳥類 16 種(オジロワシ、オオワシ、タンチョウ、アオサギ、カモ SP、等)、その他ほ乳類 4 種ヒグマ、エゾタヌキ、エゾシカ等。また、地域住民によるシマフクロウの目撃情報が調査エリア周辺で 2 件あり、目撃情報付近の環境調査や生息確認調査も実施しました。結果は未確認でしたが、分散途中の単独個体による一時立ち寄りと予想しています。今回の調査エリアと流域が重複していることもあり、本調査は引き続き情報収集の必要があり、2017 年冬期も続行し、シマフクロウの若鳥の定着可能な候補地選定につなげていく予定です。



シマフクロウの主食となるヤマベ



河畔林周辺踏査・無人集音機設置の様子



指標鳥類オオワシを確認

助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）

発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)